

第13回

'02選抜女子駅伝 北九州大会

□ 期 日 / 2002年1月20日 (日)
 □ コース / 小倉北区・小倉城歴史の道一
 八幡西区・北九州プリンスホテル
 折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

順位

一般・大学の部

- | | | |
|----|------------|-----------|
| 1 | ダイハツ(大阪) | 1° 45'59" |
| 2 | 沖電気(宮崎) | 1° 46'17" |
| 3 | 第一生命(東京) | 1° 47'00" |
| 4 | デオデオ(広島) | 1° 47'10" |
| 5 | 三井住友海上(東京) | 1° 47'21" |
| 6 | サニックス(福岡) | 1° 47'34" |
| 7 | ラララ(熊本) | 1° 47'46" |
| 8 | 九電工(福岡) | 1° 48'54" |
| 9 | 富士銀行(東京) | 1° 49'27" |
| 10 | 十八銀行(長崎) | 1° 49'46" |
| 11 | 四国電力(香川) | 1° 50'29" |
| 12 | TOTO(福岡) | 1° 51'10" |
| 13 | 京都産業大学(京都) | 1° 52'15" |

区間賞

- | | | |
|-------------|---------------|---------|
| 第1区(4.2km) | 洪井 陽子(三井住友海上) | ★13'06" |
| 第2区(5.9km) | 大塚 茜(十八銀行) | 18'54" |
| 第3区(5.1km) | 志賀 友美(沖電気) | 16'28" |
| 第4区(5.9km) | 伏見 圭代(第一生命) | 19'19" |
| 第5区(11.7km) | 山中美和子(ダイハツ) | 36'52" |
- ★は区間新

高校の部

- | | | |
|----|-------------|-----------|
| 1 | 立命館宇治(京都) | 1° 48'27" |
| 2 | 諫早(長崎) | 1° 49'01" |
| 3 | 筑紫女学園(福岡) | 1° 49'07" |
| 4 | 神村学園(鹿児島) | 1° 50'48" |
| 5 | 戸畑商業(福岡) | 1° 50'50" |
| 6 | 口加(長崎) | 1° 52'04" |
| 7 | 西京(山口) | 1° 52'21" |
| 8 | 柳川(福岡) | 1° 52'51" |
| 9 | 千原台(熊本) | 1° 53'35" |
| 10 | 九州国際大付(福岡) | 1° 54'20" |
| 11 | 熊本信愛女学院(熊本) | 1° 54'40" |
| 12 | 山田(高知) | 1° 55'00" |
| 13 | 由良育英(鳥取) | 1° 56'29" |
| 14 | 興譲館(岡山) | 1° 58'31" |
| 15 | 北九州市選抜(福岡) | 1° 59'25" |
| 16 | 大分東明(大分) | 2° 02'51" |

区間賞

- | | | |
|------------|--------------|--------|
| 第1区(4.2km) | 加来 美咲(諫早) | 13'45" |
| 第2区(5.9km) | 池田 恵美(立命館宇治) | 18'55" |
| 第3区(5.1km) | 樋口 紀子(立命館宇治) | 16'34" |
| 第4区(5.9km) | 金指亜由美(立命館宇治) | 19'40" |
| 第5区(4.9km) | 福崎みゆき(神村学園) | 16'45" |
| 第6区(6.8km) | 大渡 泰子(諫早) | 21'21" |



初出場で優勝を飾ったダイハツ・山中美和子

一般・大学の部

初出場のダイハツが頂点 アンカー・山中が沖電気を逆転

ダイハツが初出場で頂点に立った。アンカーの山中美和子が、大会7回目の優勝を狙った沖電気のエース・川上優子を逆転し、区間賞で逃げ切った。

1区で10位と出遅れたダイハツは、2区の大越一恵が4人抜き。3区の吉原有美も3人をおかわした。最終区でトップの沖電気と21秒差の3位でタスキを受けた山中は、9.4km過ぎに沖電気の川上をつかまえ、粘る川上を振り切った。

沖電気は2区で首位を奪い、3区・志賀友美の区間賞などで差を広げたが、アンカーの川上が踏ん張れなかった。第一生命は4区・伏見圭代の快走で3位。1区で渋井陽子が独走した三井住友海上は中盤のプレーキが響いて5位にとどまった。

山中美和子・ダイハツ5区 「沖電気の川上(優子)さんを抜けなかったら私の責任。みんなの走りを無駄にできないと思った。今度は全日本実業団駅伝の優勝を目指します」

川上優子・沖電気5区 「左足がけいれんして踏ん張れなかった」

渋井陽子・三井住友海上1区 「体重は4kmオーバー。悪いなりに、ついついラストスパートしちゃいました」

高校の部

エース池田が復活 立命館宇治が初V 全国女王・諫早の4連覇阻む

全国高校駅伝で優勝候補の筆頭と見られながら、エース・池田恵美の不振で8位に終わった立命館宇治が、3区間で区間賞を奪取し、独走で初出場初優勝を果たした。全国高校駅伝チャンピオンの諫早は中盤区間でリズムに乗れず、34秒差で2位に終わり、4連覇を逃した。

立命館宇治は1区5位とやや出遅れたが、2区の池田が50m近く先を行くトップ集団を3.5km付近で逆転。実業団を含めて8人抜きの快走で、逆に15秒の貯金を作ってタスキを渡した。続く3区の樋口紀子、4区の新井由美も後続との差を広げて一人旅に。その後も堅実にタスキをつなぎ、初優勝のゴールテープを切った。

諫早は1区で加来美咲がダンゴ状態から抜け出しトップ。3区で6位まで落ち込んだが、最終区で主将のエース・大渡泰子が意地を見せて2位に巻き返した。

総合力の高い筑紫女学園、神村学園が3、4位。1区の佐藤さくらが区間2位と健闘した地元の戸畑商が5位に入った。

池田恵美・立命館宇治2区 「高校生はすべて抜こう。いけるならどこまでも、という気持ちで走った」

荻野由信・立命館宇治監督 「池田(恵美)は次々と抜ける、おいしいポイントを走ったな。北九州市に来てよかったよ」

大渡泰子・諫早6区 「駅伝全勝で終わりがよかったのですが……」



初優勝のゴールテープを切る立命館宇治・古田菜穂子